

ICT機器を生かして

「分かりやすく伝える力」を育てる ～「伝える」から「伝え合う」へ～



名古屋市立植田南小学校

〒468-0051 名古屋市天白区植田三丁目301

TEL (052) 805-5711 FAX (052) 802-7536

URL <http://www.ueda-s-e.nagoya-c.ed.jp/>

事業のねらい

コミュニケーション能力の基本となる、「分かりやすく伝える力」を伸ばす学習に取り組みせながら、積極的に人とかわり、話し合うことを通して自分の考えを深めていく児童を育てたいと考えました。

発表の場としての「うえみなホール」の整備や、各教室の書画カメラの設置等ICT環境を充実することにより、言語能力の育成を目指しました。

事業の内容

「伝える力」(話す力・聞く力)を育てる

教科や総合的な学習の時間におけるまとめの場面で、発表活動に積極的に取り組みせました。互いの発表を聞き合いながら、「伝える力」について相互評価を行いました。また、自分の発表の様子をビデオで振り返り、「どうすればもっと分かりやすく伝えることができるか」を考え、グループで意見を出し合いました。話す側に立ったり、聞く側に立ったりしながら改善点を考えました。



発表の様子を振り返る児童

「伝え合う力」を育てる

1対1からグループへ、そして、学級から学年全体へと話し合い活動を発展させていきました。100人以上の児童が集まって学習できる「うえみなホール」を整備しました。コンピュータ、プロジェクター、大型スクリーン、レクチャーテーブル、大型液晶テレビ、書画カメラ等を置き、学年全体で、発表活動や話し合い活動ができるようにしました。



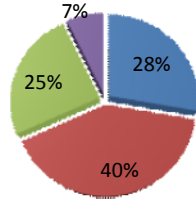
「うえみなホール」での学年討論

事業の成果

(平成22年11月調査 対象2～6年421人)

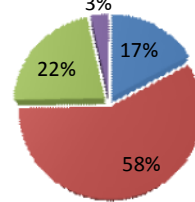
自分が考えたことを進んで 発表しようとしていますか

■ はい ■ どちらかといえばはい
■ どちらかといえばいい ■ いいえ



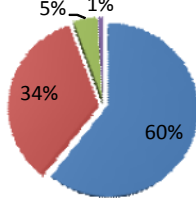
考えたことを分かりやすく伝える ことができるようになりましたか

■ はい ■ どちらかといえばはい
■ どちらかといえばいい ■ いいえ



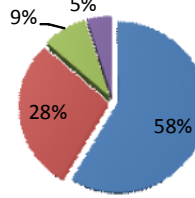
友だちの発言をしっかり聞こうと していますか

■ はい ■ どちらかといえばはい
■ どちらかといえばいい ■ いいえ



友だちと話し合う勉強は好き ですか

■ はい ■ どちらかといえばはい
■ どちらかといえばいい ■ いいえ



7割近くの児童が自分の意見を進んで発表しようとしており、8割近くの児童が自分の伝え方に自信をもつようになりました。事前準備をして臨む発表会だけではなく、朝の会でのスピーチや授業中の発言などにも成果が表れています。

また、9割以上の児童が友だちの発言にしっかり耳を傾けようという意識をもっており、8割以上の児童が話し合い活動を楽しんでいます。言葉のやりとりを通して人とかわかることの喜びを感じることができたと考えます。

児童は「うえみなホール」での授業を楽しみにしており、書画カメラを使ったり、コンピュータでプレゼンテーションを行ったりするなど、ICT機器を積極的に活用して発表活動を行っています。また、各教室においても、黒板に映し出した図や写真をもとにした話し合い活動が盛んに行われています。

事業のまとめ

「どうすれば相手に分かりやすく伝えることができるだろうか」と考えさせることで、「相手の立場に立つ」というコミュニケーションの基本となる視点をもたせることができたと考えます。児童は、お互いに思いやり、学び合おうという意識をもって授業に取り組んでいます。また、「うえみなホール」は、発表活動だけではなく、視聴覚教材の視聴やゲストティーチャーを招いての講演会など、学年全体で取り組む学習活動にも適し、学習の質や多様性を高めています。

伝える力（話す力・聞く力）を育てる

2年生「はるの町 大すき」（生活科）

学区探検をして、発見したものをデジカメで撮影しました。写真をプロジェクターで大型スクリーンに映し、学年全体で発表会を行いました。

探検をして気づいたことを、原稿を見ないで話すことができました。

シャクトリムシが葉っぱにくっついて、食事をしていました。



3年生「絵文字発表会」（国語）

オリジナルの絵文字を考え、その意味や掲示場所、工夫した点などを発表しました。「うえみなホール」は、場所を広くとることができるので、小グループに分かれての発表活動にも適しています。保護者参観日にも大いに活用しています。



小グループでの発表練習

「こうすればもっと分かりやすい発表になるよ」と、ふせんにアドバイスを書き、評価シートにはりつけます。

5年生「まんがの方法」（国語）

コマ割りや吹き出しなどの、いろいろなまんがのおもしろい工夫を見つけ、資料を提示しながら分かりやすく発表しました。練習の様子の録画を見ることで、自分の話す姿を客観的に分析することができ、改善点を出し合うことで、発表のスキルは大幅に向上しました。



資料にマスキングをして、見せ方に工夫を加えます。

原稿ばかり見ていてはいけないよ。



もっと大きな声で、ゆっくり話すといいね。

伝え合う力を育てる

6年生「開け！ 世界のとびら」（総合的な学習）

「日本と外国の文化の違い」について、プレゼンテーションソフトを使ってまとめ、学年全体の前で発表しました。

外国に比べると、日本は高い技術があるけれど、労働時間が長いことが分かりました。



外国からの留学生を招き、「日本は暮らしやすい国かどうか」というテーマで、学年全体で討論を行いました。二つの立場に分かれ、活発な意見交換ができました。（自分の立場を赤白帽子で示す）

日本は外国と比べれば安全だし、交通機関も発達しているので暮らしやすいと思います。

食糧自給率が低いにもかかわらず、農業人口が減っている日本が、暮らしやすい国とは思えません。



5年生「わたしたちの生活と食料生産」（社会科）

グラフなどの資料を見て疑問点を出し合い、その疑問に対する答えを考えます。

なぜ、米作りをする人が年々少なくなるのかな。仕事が大変だからかな。

米を食べる人が少なくなったからかもしれないよ。



グループで話し合った結果について、資料を書画カメラで黒板のスクリーンに映しながら発表します。資料やノートなどをすぐに映し出すことができる書画カメラを学年に一つずつ配置したことで、学習成果をすぐに発表することができるようになりました。

米作りをする若い人たちの数が年々減っています。仕事が大変なこと、収入が少ないこと、都会へのあこがれなどが理由だと思います。

